

歯科医療現場における OAS・ラテックスアレルギーに対する認知度・意識調査

仙波 和代¹⁾²⁾ 三浦 宏子³⁾ 田嶋 理江⁴⁾ 河野 憲司⁴⁾
浅田 憲彦¹⁾ 高松 伸枝¹⁾²⁾ 近藤 康人²⁾

別府大学食物栄養科学部¹⁾

藤田医科大学ばんだね病院小児科²⁾

国立保健医療科学院国際協力研究部³⁾

大分大学医学部歯科口腔外科⁴⁾

【要 旨】

OAS（口腔アレルギー症候群）は、食物摂取直後に口腔粘膜を主症状として発症する食物アレルギーである。OASの中でもラテックスアレルギーやラテックス-フルーツ症候群を併発している場合、アナフィラキシーショックの可能性があることから、歯科治療の安全危機管理において注意しなければならない疾患である。本調査は、歯科臨床でOASに対しどのような注意がなされているのか現状を把握することを目的として行った。その結果、知識はあっても実際に経験が少なく、日常診療において意識していない点があげられた。今後は専門家によるセミナーなど、実践的な勉強のできる機会を増やしていく事が、危機管理として大切であると考えられた。

【キーワード】

OAS アナフィラキシー 歯科診療

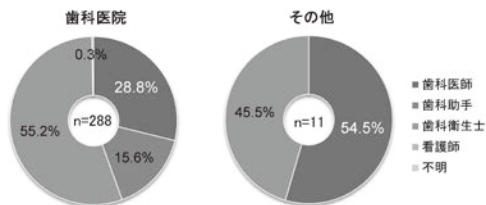
【背景・目的】

OASは、口唇、口蓋、舌などの口腔に限定したIgEによるアレルギー反応であるが、時に全身症状を来すこともある。一方ラテックスアレルギーは、ゴム製品であるラテックスに対するアレルギーであるが、ラテックスアレルギー、OASそして花粉症は、そのエпитオプの類似性によりクロス反応をきたす可能性があることが報告されている¹⁾²⁾。

歯科医療現場では、歯科材料や手袋などラテックスを使用する頻度が高く、使用する医療従事者と、使用される患者側の双方において、ラテックスアレルギーの感作や症状を引き起こすリスクがある。クロス反応を考慮すると、OASや花粉症の患者への治療の際には注意が必要であると考えられるが、日常診療においてどのように気を使っているのか医院によって差がある³⁾。そこで本研究では歯科医療現場におけるOAS・ラテックスアレルギーに対する認知度・意識調査を行い、歯科医療従事者のアレルギー感作を防ぐとともに、重篤な医療事故を未然に防ぐための啓発活動の基礎データを確立する。

【対象と方法、結果】

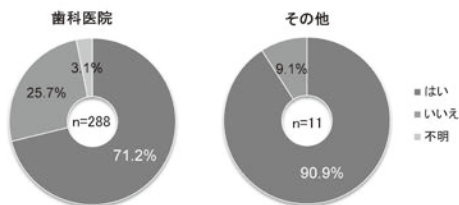
2016年4月～2016年10月に大分県の歯科医師会会員に対して、質問紙によるアンケート調査を行った。質問紙は複数枚郵送し、歯科医師会会員の経営している、または勤務している医院や病院の歯科医師以外の歯科医療従事者にも配布して頂いた。歯科医院勤務者288人（歯科医師83人、歯科助手45人、歯科衛生士159人、看護師1人）、その他病院11人（歯科医師6人、歯科衛生士5人）から回答を得られた。



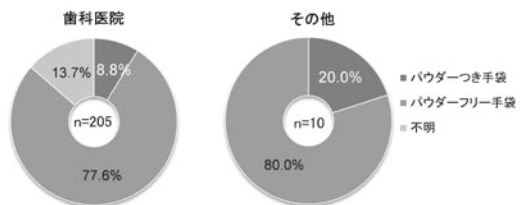
【質問内容と回答結果】

①どのような手袋を使用しているかについて、ラテックスが含まれている手袋の使用率は歯科医院で71.2%、その他で90.9%であった。また、ラテックスが含まれている手袋を使用している人にパウダーつきの有無を質問したところ、パウダーフリーを使用している割合は歯科医院で77.6%、その他で80.0%と過半数を超えた。

現在ラテックスが含まれている手袋を使用されていますか？

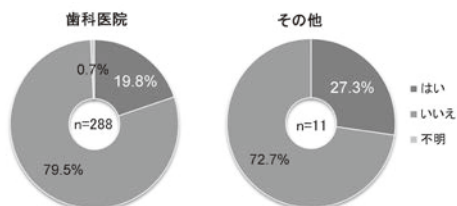


パウダーつき手袋ですか、パウダーフリー手袋ですか？

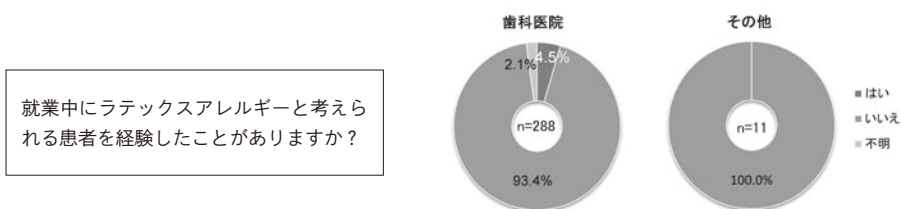


②手袋を使用時にご自身が違和感を生じたことがあるかについては、生じたことがある割合は歯科医院が19.8%、その他が27.3%だった。

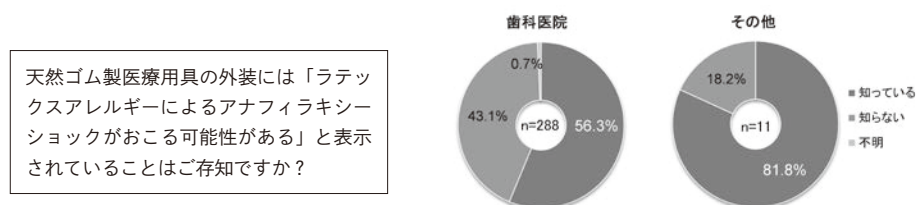
手袋使用中や使用後に、ご自身の皮膚に違和感を生じたことはありますか？



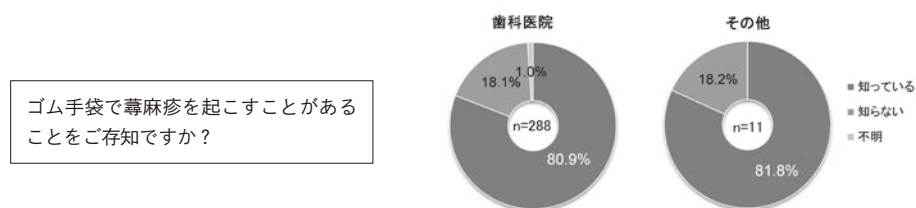
- ③ラテックスアレルギーと考えられる患者を経験したことがあるかについては、経験した割合は歯科医院が4.5%と少なく、その他が0%だった。



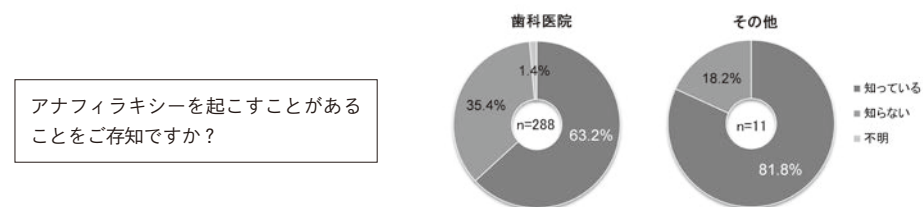
- ④天然ゴム製医療用具の外装には「ラテックスアレルギーによるアナフィラキシーショックがおこる可能性がある」と表示されていることは知っているかについては、知っている割合は歯科医院が56.3%、その他が81.8%だった。



- ⑤ゴム手袋で蕁麻疹をきたす可能性があることを知っているかについては、知っている割合は歯科医院が80.9%、その他が81.8%であった。

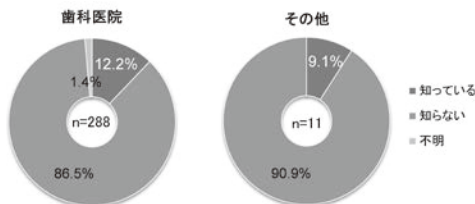


- ⑥ラテックスでアナフィラキシーをきたす可能性があることを知っているかについては、知っている割合は歯科医院が63.2%、その他が81.8%だった。



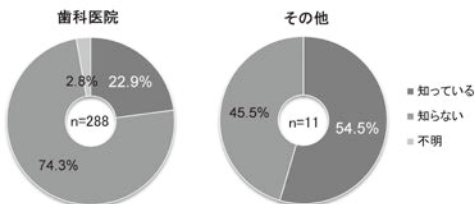
⑦ラテックスが栗・アボカド・バナナ・キウイなどの果物と交差反応を起こすことを知っているかについては、知っている割合は歯科医院が12.2%、その他が9.1%だった。

ラテックスが栗・アボカド・バナナ・キウイなどの食品と交差反応を起こすことをご存知ですか？



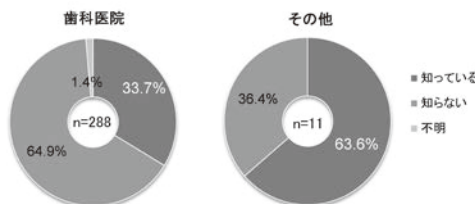
⑨OAS（口腔アレルギー症候群）について知っているかについては、知っている割合は歯科医院が22.9%、その他が54.5%だった。

OAS（口腔アレルギー症候群）についてご存じですか？



⑩ラテックスアレルギーがアトピー性皮膚炎や医療従事者に多いことを知っているかについては、知っている割合は歯科医院が33.7%、その他は63.6%だった。

ラテックスアレルギーがアトピー性皮膚炎や医療従事者などの特定のグループで頻度が高いことをご存知ですか？



また、OAS患者がラテックスアレルギーによるアナフィラキシーを起こす危険率を調べるために、ラテックスアレルギーとOASの関連性についてクロス集計表の全%表で調べた。歯科医院では、ゴム手袋で蕁麻疹を起こす可能を「知っている」中で、OASについて「知らない」割合は57.6%、その逆は0.7%だった。また、ゴム手袋で蕁麻疹を起こす可能を「知っている」中で、

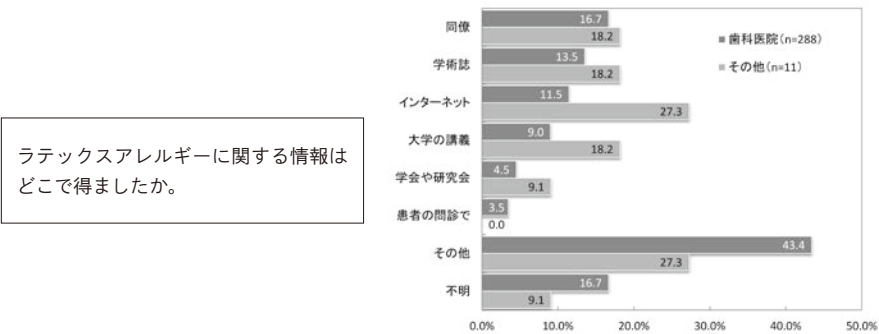
		歯科医院						
		(上段 n数/下段 全%)						
		全体	ゴム手袋で蕁麻疹を起こす可能性			ラテックスでアナフィラキシーを起こす可能性		
			知っている	知らない	不明	知っている	知らない	不明
	全体	288	233	52	3	182	102	4
		100.0	80.9	18.1	1.0	63.2	35.4	1.4
OAS(口腔アレルギー症候群)についての認知	知っている	66	64	2	0	59	7	0
		22.9	22.2	0.7	0.0	20.5	2.4	0.0
	知らない	214	166	48	0	120	93	1
		74.3	57.6	16.7	0.0	41.7	32.3	0.3
	不明	8	3	2	3	3	2	3
		2.8	1.0	0.7	1.0	1.0	0.7	1.0
果物と交差反応を起こすことの認知	知っている	35	34	1	0	34	1	0
		12.2	11.8	0.3	0.0	11.8	0.3	0.0
	知らない	249	198	51	0	147	101	1
		86.5	68.8	17.7	0.0	51.0	35.1	0.3
	不明	4	1	0	3	1	0	3
		1.4	0.3	0.0	1.0	0.3	0.0	1.0

果物と交差反応を起こすことを「知らない」割合は68.8%、その逆は0.3%だった。ラテックスでアナフィラキシーを起こす可能性を「知っている」中で、OASについて「知らない」割合は41.7%、その逆は2.4%だった。また、ラテックスでアナフィラキシーを起こす可能性を「知っている」中で、果物と交差反応を起こすことを「知らない」割合は51.0%、その逆は0.3%だった。

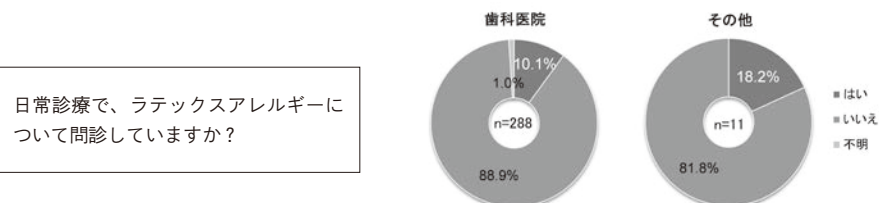
その他では、ゴム手袋で蕁麻疹を起こす可能を「知っている」中で、OASについて「知らない」割合は27.3%、果物と交差反応を起こすことを「知らない」割合は72.7%だった。ラテックスでアナフィラキシーを起こす可能性を「知っている」中で、OASについて「知らない」割合は27.3%、果物と交差反応を起こすことを「知らない」割合は72.7%だった。

		（上段 n数/下段 全%）					
		ゴム手袋で蕁麻疹を起こす可能性			ラテックスでアナフィラキシーを起こす可能性		
		知っている	知らない	不明	知っている	知らない	不明
	全体	11	9	2	0	9	2
		100.0	81.8	18.2	0.0	81.8	18.2
OAS(口腔アレルギー症候群)についての認知	知っている	6	6	0	0	6	0
		54.5	54.5	0.0	0.0	54.5	0.0
	知らない	5	3	2	0	3	2
	45.5	27.3	18.2	0.0	27.3	18.2	
	不明	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
果物と交差反応を起こすことの認知	知っている	1	1	0	0	1	0
		9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0
	知らない	10	8	2	0	8	2
	90.9	72.7	18.2	0.0	72.7	18.2	
	不明	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

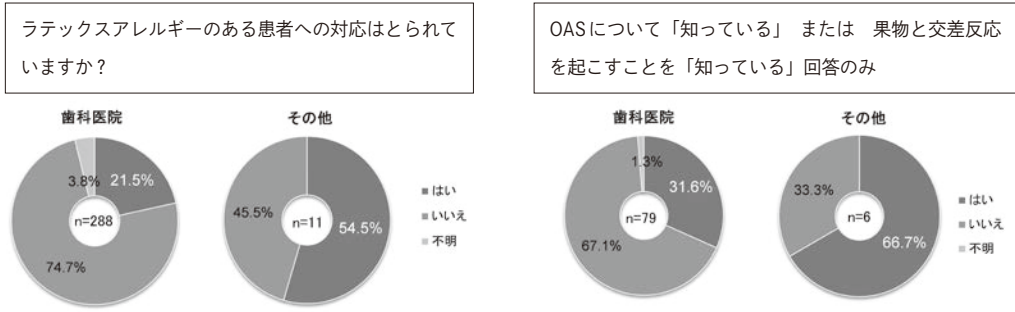
⑪ラテックスアレルギーに関する知識をどこで得たかに関しては、歯科医院は「同僚」が16.7%、その他は「インターネット」が27.3%で最も多かった。



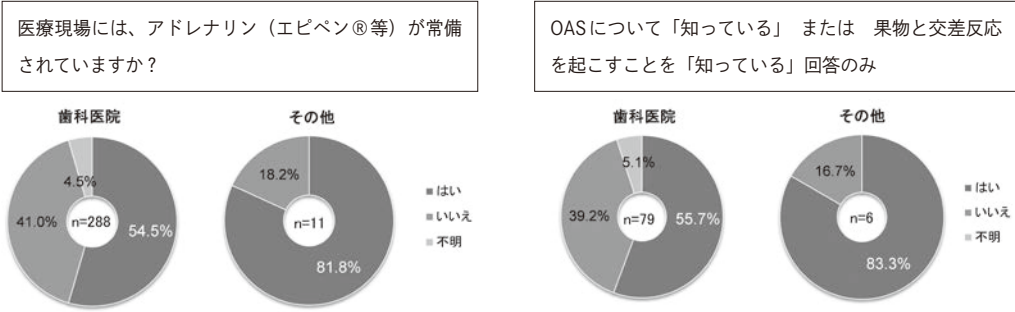
⑫ラテックスアレルギーにてついでに問診しているかについては、問診している割合は歯科医院が10.1%、その他が18.2%だった。



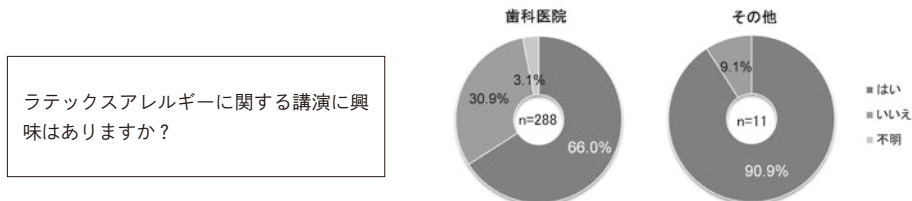
⑬ラテックスアレルギーのある患者への対応はとっているかどうかに関しては、対応している割合は歯科医院が21.5%、その他が54.5%だった。ラテックスアレルギーとOASの関連性を知っている（OASについて「知っている」または果物と交差反応を起こすことを「知っている」）のみで、実際の診療において、ラテックスアレルギーのある患者への対応がとられているかどうかの割合を調べた。対応をしている割合は歯科医院では31.6%、その他は66.7%だった。



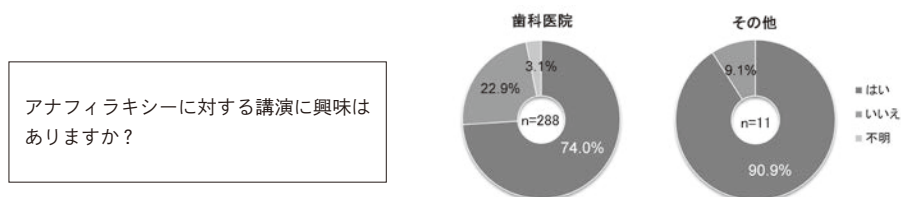
⑭医療現場に、アドレナリン（エピペン®等）が常備されているかどうかに関しては、常備されている割合は歯科医院が54.5%、その他が81.8%だった。ラテックスアレルギーとOASの関連性を知っている（OASについて「知っている」または果物と交差反応を起こすことを「知っている」）のみで、医療現場にはアドレナリン（エピペン®等）が常備されているかどうかの割合を調べた。常備されている割合は歯科医院では55.7%、その他は83.3%だった。



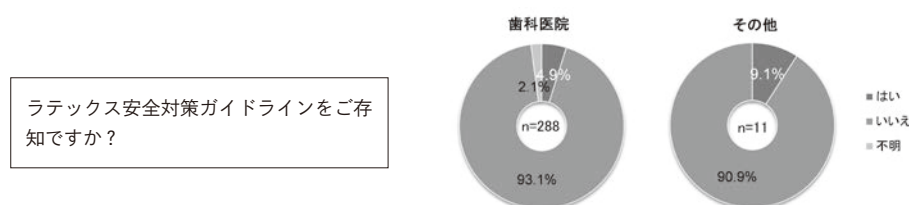
⑮ラテックスアレルギーに関する講演に興味があるかどうかに関しては、興味がある割合は歯科医院が66.0%、その他は90.9%だった。



⑩アナフィラキシーに対する講演に興味があるかどうかに関しては、興味がある割合は歯科医院が74.0%、その他は90.9%だった。



⑪ラテックス安全対策ガイドラインを知っているかどうかに関しては、知っている割合は歯科医院が4.9%、その他が9.1%だった。



【考察】

ラテックス手袋の使用率は歯科医院で71.2%、その他で90.0%であった。その理由としては、ラテックスによるアレルギーやアナフィラキシーの知識があっても（63.2%と81.8%）、ラテックス手袋使用時に違和感を感じたり（19.8%と27.3%）、違和感を感じると訴えた患者を経験したことがほとんど無く（4.5%と0%）、危機感をあまり持っていないことが考えられた。その為、ラテックスアレルギーに関する問診率（10.1%と18.2%）も低かった。歯科医療現場では半数以上においてエビペンが完備されていた（54.5%と81.8%）が、これは、キシロカインに対するアナフィラキシー様症状に早急に対応するための準備であると考えられる。

またOASやOASとラテックスアレルギーの関連性については「知らない」と答えた方々が大半で（86.5%と90.9%）、稀なケースかもしれないが、OAS患者におけるラテックス感作が実際に生じる可能性も有すると考えられた。

ラテックスに関する情報は「その他」が歯科医院で約半数を占め、興味はあるものの（74.0%と90.9%）、情報に乏しいと考えられた。専門家が少なく研修機会の少ない地域では、まず情報発信が大切であることが推察できた。

【謝辞】

アンケートにご協力頂いた各施設の方々、及び大分県歯科医師会の方々に深謝致します。

【参考文献】

- 1) Kleine-Tebbe J et al: J Allergy Clin Immunol 110:797,2002
- 2) 明石真幸、赤澤晃；ラテックスアレルギーのリスクマネージメントの現状

アレルギーの臨床 2005；25：79-83

3) 川井学、近藤康人、柘植都哉、他13名；

某県の歯科と市中病院2施設でのラテックスアレルギー意識調査、
日本ラテックスアレルギー研究会会誌